

November 2009



ケンタウルス座

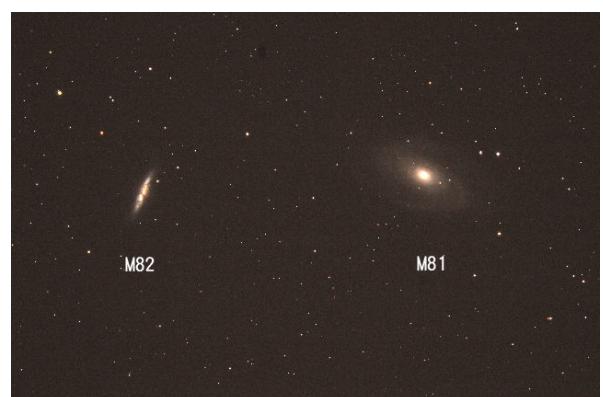
ケンタウルス座はギリシャ神話で上半身が人、下半身が馬という馬人族で、星座になっているのはヘルクレスの恩師で、ケンタウロス族の一人“ケイローン”だということです。

この星座は南に低く北海道からは上半身しか見えませんが、ここには太陽系から一番近い星があります。4.3 光年の距離にあるアルファ・ケンタウリ（伴星のプロキシマ・ケンタウリが 4.15 光年ですが暗い）で、日本では沖縄方面で見ることができます。で、一度は見たいものだと思い、7 月に沖縄まで行ってきました。7 月ではギリギリなのですが夕方の南の空に見ることができました。南十字は右側の雲に隠れて見ることができなかったのが残念です。ほかにも夏から秋にかけての星座をたくさん見てきました（徹夜しましたが蚊の襲撃と、レンズが結露するという悲劇も体験しました）。なお、MyStars に登録されている方（2009 年 10 月末）は南十字 37 件、ケンタウルス 15 件、おおかみ 11 件です。

綺羅星・星座ガイド

◎大熊（おおぐま）座

大熊座は春の代表的星座の一つで、熊の腰から尾にかけて七つの星がひしゅくの形に並ぶ、『北斗七星』があることで有名です。大熊座は大きな星座の1つで、88星座中3番目に大きな面積を持ちます。北斗七星は夜空の目印としても重宝するもので、北斗の升の2星をのばすと北極星が見つかり、柄の部分を曲ったなりにのばすと、牛飼座のアルクトゥールス、乙女座のスピカを通り鳥座にたどり着きますが、この曲線を『春の大曲線』といいます。熊の足先にある星は2個ずつ三組並んでいることから『三段跳び』と呼ばれます。

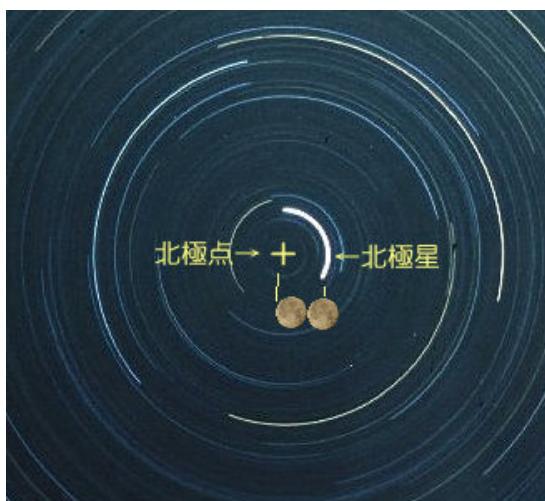
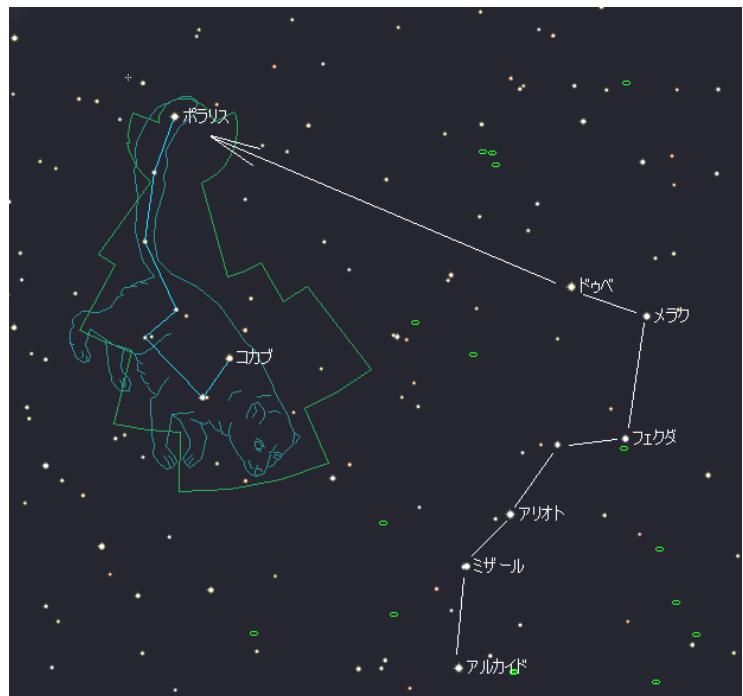


北斗七星の柄の先から二つ目の星（ミザール）をよく見ると、おまけが付いています。アルコルという4等星で視力が1.0以上あれば見ることができます。昔アラビア地方ではこの星が分離して見えるかどうかで、視力検査に使っていたと言います。またミザールを望遠鏡で見ると同じような明るさの星が並んでいて、こちらは互いに周りあう連星です。春の星座には銀河が多くありますが、大熊座にもたくさん銀河があります。M81、M82、M101は明るく大きいので小口径の望遠鏡でも見ることができます。北斗の升の近くにM97という星雲があります。寿命を終えた星の残骸で、その姿から『ふくろう星雲』と呼ばれていますが、丸い星雲の中に薄暗い部分が二つあって、これがフクロウの目に見えると言うことからこの名前が付けられました。この星雲は大きな望遠鏡でなければ見ることはできません。

◎小熊（こぐま）座

小熊座は2等星が2個と3等星が1個で、星座としてはやや地味ですがその中の1つが北極星です。星座は2~5等星がつくるひしゃくのような形になっていますが、『北斗七星』に対し『小ひしゃく』といいます。天の川から離れているので星の数は余り多くありませんが、そのぶん2等星の北極星（ポラリス）でも目立っています。

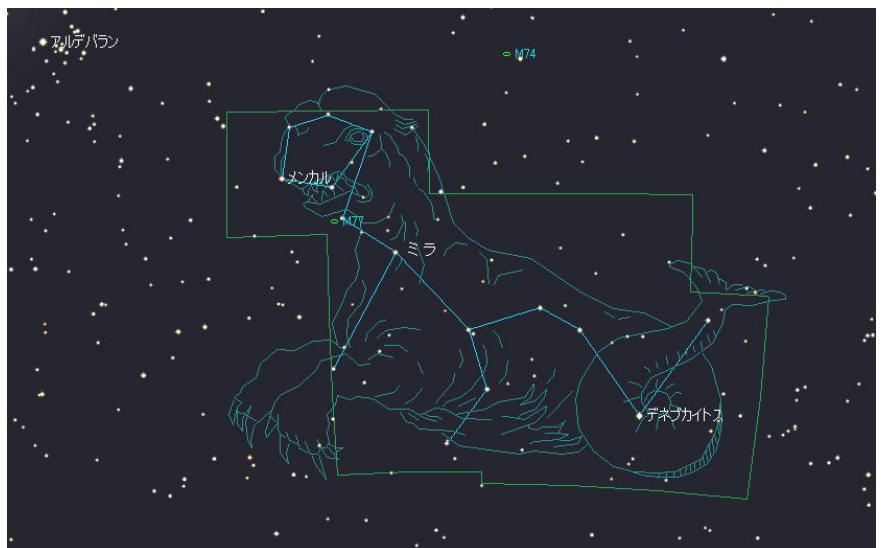
北極星は北の空で動かないと言いますが、実は北極点から満月1個半くらいずれた位置にあるため控えめに動いていて、写真に写すと小

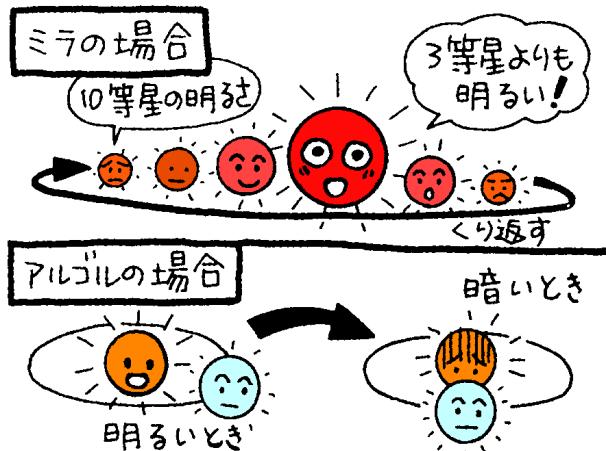


さな円を描いて写ります。ポラリスはいつまでも北極星のままでいるわけではなく、長い間には少しずつずれて、8,000年後にははくちょう座のデネブが、12,000年後にはこと座のベガが北極星の代わりになります。北極星の交代は地軸（地球の自転軸）の傾きが不安定なのが原因で、そのふらつきが約26,000年で一回りします。現在の北極星も2102年に北極点に最も近づきますが、その後ゆっくりと離れていきます。北極星は二重星で、望遠鏡で見ると淡黄色の2等星のそばに青色の9等星が並んでいます。

◎鯨（くじら）座

鯨座は秋の星座の1つで水瓶座の東で魚座の南にある大きな星座です。その面積は全星座中4番目の大きさです。北東の輪を描いたような星の列が頭の部分で、余り明るい星ではありませんが意外と目立ちます。ここから南西の方向に体がありますが、結びやすい星座ではありません。





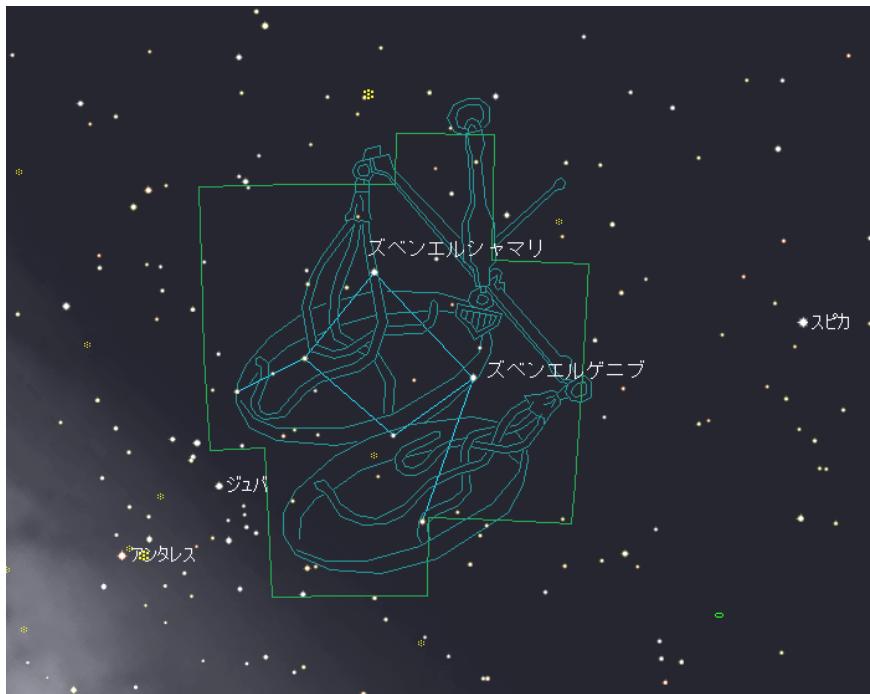
鯨座で目立つ星と言えば、しっぽにある2等星のデネブ・カイトスくらいなものですが、明るいだけで特に特徴があるわけではありません。鯨座を有名にしている星の1つに、鯨の首にある変光星ミラの存在でしょう。ミラは約330日の周期で2等星から10等星まで明るさを変えます。これはミラ自身が膨らんだり縮んだりしていて、膨らんだときは直径が太陽の440倍くらいまで大きくなります。このような変光星を『脈動変光星』といい、もうすぐ（といっても数

億年後）寿命が尽きそうな星なのです。このほか銀河も多くありますが、中でも顔の近くにあるM77は『セイファート銀河』と呼ばれ、核が明るいため一見星のように見えますが、大きな望遠鏡では淡い渦が見えます。

◎天秤（てんびん）座

誕生日星座としておなじみの星座で、乙女座とさそり座の間で、季節的には春と夏の境界にあります。乙女座もさそり座も目立ちますが、取り立てて特徴のない天秤座はちょっと地味です。3~4等星が四角く並んで天秤の姿をしています。

天秤座は南に低いので緯度の高い北海道では余り注目されませんが、本州以南では高く上がるのでしっかり見てやって下さい。見るものが何もないわけではなく、ズベン・エルゲヌビは大熊座のミザールと同じように肉眼で見える二重星です。ただ、主星も伴星もミザールより1等級暗いのでなかなかわかりにくいですから、双眼鏡の力を借りると良いでしょう（オペラグラスでも見えます）。色は白と黄色です。



「My Stars 通信」の天文図は **StellaNavigator6 (AstroArts)** を使用しています。

綺 羅 星 列 伝

今回は三遍ご覧ください。皆さんのお星物語よろしくお願いします。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : Setsuko & Tsuneaki

数年前に娘よりプレゼントされた時は、とても嬉しかった。今でも星を見るのが好きでお天気の良い時は、月と星を孫が来た時は、一緒に見ます。この宇宙に2人の名前のついた星があるなんて、とても口マンチックです。11月末に稚内方面に行くことになりもしかして近くを通るのではと思い地図を見ると近くを通過するわかり、もしか立ち寄せたらと資料とカギを持って行き、参加したガイドさんに話をすると、初山別は夕方4時半位で見えないかもと云われ、その通りでしたが初山別村をガイドさんが知らせてください、それだけでとても感動しました。

いつかゆっくり来たかった所に来られると思って見なかったので、実は妹の夫が旅行好きで時間があれば北海道も5~6回行きました。私たちの星の話をすると、60才で退職したら、1ヶ月かけて行こうねと云ってくれましたが、平

成18年の3月に骨のガンで帰らぬ人となり2度と実現出来ないとあきらめていた所に私達2人と妹と3人で出かけることが出来、とても楽しい4日間でした。きっと星のことがなかったら、何げなく通り過ぎた村を、思いをこめて通れたことを、とても嬉しく思いました。又機会があれば天文台に出かけられますよう願っています。亡くなった彼もきっと、一緒に行ってくれることでしょう。星に名前が付いただけでも嬉しいことなのに、今年甲子園球場に、レンガに名前を入れることが出来るのに又娘が申し込んだよと云ってくれ、タイガースファンの夫と共にうれしく、世の中に2つも名前が残ることが出来、とても良い年でした。

星に逢える日を楽しみ、これから毎日を送りたいと思います。実現出来ない時は孫8人にたくしたいと思います。

星の名前 : ATAREAL

今から10年前の秋、むかととの旅行帰りたまたま通りかかり立ち寄った初山別天文台で My Stars system の事を知り、

A → 私の頭文字、 T A → 彼の頭文字、 R E A L → 当時2人でよく聞いていた曲の一部を取り“ずっと一緒に居られますように★”と願いを込めて、登録しました。

あれから10年、私と彼は今も一緒にいます。この10年、本当に辛い事、悲しい事も2人で乗り越えて、過ごしてきました。結婚して9年経ちましたが、今も彼は、私にとって本当に大切で愛しい人です。

初めて天文台に行った日から、まだ一度も自

分の目で星を見る機会がないままだったけれど、今とても私達の願いを込めた星に会いたくなりまし。

星の話を知らない私達の子供にも、パパとママのステキな話を、星を見ながら聞いてほしいな。近々会いに行きます。

これからもお互いが、かけがいのない存在であり続けられますように・・・。

たかちん。大好きだよ。

本当に甘えんぼうで、弱虫な私を、いつも側で支えてくれてありがとう。

あなたと出会って、結婚して私はとっても幸せです。

星の名前 : Emiko, be ambitious!

私がこの初山別天文台を訪ねたのは、初めて購入したマイカー(SUBARU ビストロ)がきっかけとなつた、兄と二人でのビストロ運転旅行でした。『北海道一周』を目標に、地元栃木県を出発し、青森県からフェリーに乗つたのです。もちろんコースは綿密に計画済み。計画コース中には、この初山別天文台も含まれていました。

十分ゆとりを持って計画を立てたつもりでしたが、北海道の広大な大地には驚かされるばかり。宿にたどり着くだけで精いっぱいの毎日が続いていました。目標はいつしか『何がどうあっても宿にたどり着く事』に変わっていたのです。

そしてその日も、大幅な時間遅れで何とか初山別天文台に到着したのです。もう、夜の時間帯になつていたのでしょうか？受付に急ぎ、星の登録手続きを何とか間に合わせました。名前は初めから決めてありました。

【Emiko, be ambitious!

(恵美子、大志を抱け！)

私は、その日のノルマをこなした事にもう満足でした。

宿に向かおうと、天文台を出て空を見上げま

した。その時の驚きと感動を、私は今も忘れません。闇の中に散りばめられた無数の星。そこに太くしっかりと流れる天の川。周囲には民家も無く、あるのは月と星が主張する明かりだけ。たつたそれだけなのに、そこには込み上げるような感動がありました。ここまでこなければ、一生出会えない感動だったかもしれません。

あれから13年の年月が流れようとしています。あんな素晴らしい夜空を、私は未だに見た事はありません。あの感動は私の心に焼き付いたまま、いつかまた訪れる日を待ち望んでいるのです。あの、変わらない夜空を見るために。

私は今、その星の名の通り、抱いた大志を実現させようとしています。2009年の春、私は童話作家としてデビューします。一念発起して応募したとある懸賞で、なんと受賞することができたのです。私は今36歳。子供の頃から抱いていた夢が、いよいよ叶うのです。

これも、星に願いを掛けたあかげでしょうか・・・

こちら情報室

○天文情報（12月～5月）

流星・彗星

● 12月13日を中心にふたご座流星群

活発な流星群の1つで、多いときは1時間で50個以上見られます。今回は新月近い月のため月明かりがなく好条件で見られます。

● 1月4日未明にりゅう座流星群（しぶんぎ流星群）

1日が満月のため条件は悪いですが、それでも1時間に10個程度は見られるでしょう。

● 4月23日未明にこと座流星群

7日が上弦の月で夜中には沈みますから、夜中から明け方は好条件です。

● 5月6日未明にみずがめ座流星群

みずがめ座イータ群で明け方の低空のため東北・北海道ではほとんど見られませんが、本州以南では少し見られます。南半球では活発な流星群の1つです。

◎ 彗星を見よう

● このところ一般の人が注目するような彗星は見えていませんが、過去には春の明け方の空で明るくなる彗星が多くみられていますので、天文情報に注目しましょう。

過去に春の明け方の空で明るくなった彗星

ベネット彗星（1970年）、ウェスト彗星（1976年）、ヘール・ボップ彗星（1996年）、ブランドフィールド彗星（2004年）、マックノート彗星（2007年）など

日食・月食・星食

● 新年になったばかりの1月1日未明に軽微な部分月食が見られます。欠け始めは3時51分、終了は4時53分です。最大になるのは4時22分ですが、月の8%しか欠けないのでうっかりすると見逃してしまうかも知れません。初詣の帰りに（3時から5時）月を見ると、左下の方がわずかに暗くなっているのが見えるかも知れません。

● 1月15日の夕方西日本で欠けたまま沈む部分日食（インド・アフリカ方面で金環日食）

が見られます（東日本や北日本では日没後で見られません）。欠け始めは16時40分過ぎで日没まで見られ、西の地方ほど大きく欠け、富山で15%、那覇では60%以上欠けて見えます。

● 1月25日の19～22時ころプレアデス星団の食が見られます。月齢9で上限をすぎていますが



双眼鏡でも月のそばに星が見えるでしょう。

惑星

水星：1月27日と5月26日は明け方の東空で、4月9日は夕方の西空で最大離隔となり見やすくなります。

金星：1月11日に外合（太陽の向こう側）になり、以後夕方の西空に見えますが、見やすくなるのは6月ころからです。

火星：1月31日に衝を迎えるに適します。今回は遠い接近になるため余り条件は良くありません。

木星：3月1日に合（太陽の向こう側）になるため8月以降まで休みです。

土星：3月23日に衝になり8月まで見られます。環はまだ細いです。

天王星：3月17日に合となりしばらく休みです。

海王星：2月15日に合となりしばらく休みです。

[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mailどちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

「My Stars通信」の送付について、登録番号8481の方は次号よりホームページ上でご覧ください。なお、インターネット利用環境のない方につきましては今後とも郵送することで考えておりますので、希望者にはご一報いただきたくお願いします。

[編集後記]

2009年10月末現在の登録者数は8481名です。2009年7月10日は天文台開台20周年ということで、その記念を兼ねて6月27~28日に世界天文年と20周年記念を兼ねた星まつりを行いました。これまで星まつりは8月上旬に行っていましたが、時期的に天候が悪く星はほとんど見えないため、天候の安定した6月に変更しました。今後の星まつりは6月下旬から7月上旬に行う予定です（2010年は7月3日の予定）。

今年の夏は、台風、大雨、洪水などの自然災害が各地で見られ、海外でも洪水、干ばつ、山火事、竜巻、地震などが頻発していました。これら過去には少なかった災害も、近年は恒常に発生していますが、自然界から的人類に対する警告でしょうか。日本ではこの夏冷夏と言うことでやや気温の低い状態がありました。また、全国的に雨も多くなり農作物も不作だったようですが、皆様のお住まいのところではいかがだったでしょう。この冷夏の名残か今年の初雪は10月31日でした。が、実は初山別の有明地区の一部ではこの3週間ほど前に雪が降りました。局地的だったため村民でも気づかなかった人が多かったようです。

今年は初山別村の村制施行100周年、天文台設立20周年も無事に終え、1つの節目を乗り越えました。『世界天文年2009』もあとわずかですが、世界天文年が終わっても星空をながめてください。（K）

編集・発行 しょさんべつ天文台 ☎078-4431 北海道苦前郡初山別村字豊岬 153-7

天文台ホームページ URL=<http://www.hokkai.or.jp/shosanbe/>

E-Mail 教育委員会 shkyoiku@saturn.plala.or.jp しょさんべつ天文台 shosanbe@hokkai.or.jp